

第2 2回 茂林寺前駅から館林駅

実施日 2023 (令和5) 年4月12日 (水) 天候 晴れのち曇り 気温 高い

参加者 折本 文雄、前北 勝司、中田 信義、中島 征雄 計4名

歩行距離：10.6km。累計歩行距離 205.7km。

全体所要時間：4時間24分。移動時間：3時間02分。停止時間：1時間22分。

移動平均速度：3.50km/h。全体平均速度：2.41km/h。



茂林寺前駅を9時21分に出発。今日は、寒冷前線が通過し午後小雨。その後黄砂がすごいとの予報が出ているが出発時点では少し暑いが良い天気。終わるまでなんとか降らないことを祈る。

東武伊勢崎線の踏切を渡り街道へ向かう。街道(県道7号線)に出、右折。その先の三叉路(9:44)から館林城下町の入口近く(遍照寺あたり)まで1500m程杉並木が続いていたという。街道(県道7号線)を淡々と歩き、東武伊勢崎線の踏切を渡った(10:01)先の右奥に遍照寺がある。(10:10~14)当寺は館林藩主榊原康政(徳川四天王の一人)が祈願所とした寺で、江戸から来た殿

様一行は入城する手前のこの遍照寺で身支度を整えてから江戸口御門に向かったという。

街道を少し進んだ新宿一丁目交差点（10：18）は鍵の手になっており、城下町の入口である。城沼に流れる鶴生田川を渡ると緩やかな上りとなり、館林駅入口交差点の手前に「江戸口御門」があった。（10：24）江戸口御門は柵形門で、西を向いていた。

江戸口御門の後ろに「宵（初引）稲荷神社」がある。伝説では『大袋城主赤井照光が助けた狐が恩返しに館林の城の縄張りをしっぽで最初に引き始めた所』という。この稲荷神社の南側の石垣は江戸口御門の南側の堀の石垣。

県道57号線を横切った所に「青龍の井戸（青龍神社）」がある。（10：33）この井戸は延宝年間に突然清水が噴き上がり、中から女官姿の「青龍権現」が姿を現したとのこと。この話を聞いた綱吉の母「桂昌院」が井戸の傍らに「青龍権現社」を建てたという。

青龍神社の横の小道（肴町通り）を入ると「国登録有形文化財」に指定されている入母屋造り木造2階建ての「旧二業見番組合事務所」がある。（10：36）

肴町通りの突き当たる（10：39）と「歴史の小径」があり、この道を行くと、外池商店の建物、鷹匠町長屋門、鷹匠町武家屋敷・武鷹館、足尾鉍毒事件田中正造記念館があり、途中には「His Master's Voice」の写真が掲げてあるバーがあった。小径から出て、県道を渡った所に館林城「土橋門」がある。

（10：58）この門は三の丸に通じる通用門として使用された。門を潜ると外部から城内が見えにくくする葦土居（しとみどい）が設けられている。

館林市文化会館・カルピスホール（三の丸跡）を通過して武士の正門とされた「千貫門」へ行く。（11：03）今は「千貫門跡」の石碑のみ。二の丸跡の市役所を右に見て二の丸広場を進むと前方に「向井千秋記念こども博物館」があり（11：11）、ここが館林城の本丸跡で現在は土塁が残っているのみ。土塁に沿って進むと八幡社があり、ここが八幡郭の跡。その先に菖蒲畑があり、その中のあずま屋で休憩。（11：23～29）

休憩後、最後の藩主秋元家が明治に末期に建てた別邸の庭を通り、尾曳郭のあった尾曳稲荷神社へ向かう。長い参道の奥に社殿があり（11：40）、その奥に「館林七福神弁財天」が祀られている。

稲荷神社を後にして城内口（11：59）と城下口（12：04）の2カ所ある「加法師口門跡」に向かう。二つの加法師口門跡の脇には「館林城惣郭土塁」の跡が残っている。

県道に出て左折、直ぐ先に「夜明稲荷神社」がある。（12：08）狐が城の縄張りのため、尾を引き始めたのが「宵（初引）稲荷」で、この神社が曳き終わりの場と伝えられている。

夜明稲荷神社から県道を300m程（信号3つ目の先）にラーメン屋自慢亭があり、ここで昼食とする。（12：12～13：03）混んでいて入店までかなりの時間おもてで列んだが、美味しく、これなら行列ができると納得。

食事後、県道の信号を2個戻り左折。この道は「大名小路」と呼ばれた大手門から本丸に向かう通りで、300m程の三角の公園の手前角に「大手門跡」の石碑がある。（13：10）三角公園から西北に延びる道は太田口御門を通り県道2号線を進んで太田・伊勢崎・前橋方面にに向かう。

三角公園を左折し、次の信号交差点を右折して出た県道（中央通り）が日光往還で、交差点の東北角あたりに「館林宿本陣」があった。（13：16）

交差点を渡り左折し、200m程の右側の路地入口に鳥居と「日本四社青梅神社」と彫られた石柱があり、細い路地の奥に門と社殿がある。（13：21～28）縁起によると『祭神菅原道真公が太宰府に左遷されたとき楊枝の先に梅の実をさし、それぞれ一個ずつ東西南北に投げ、北に投げたものが出雲国に飛び花久理梅となり、南は讃岐国へ飛び花さく梅となり、西は筑前太宰府の飛梅、東は上野館林へ飛び青梅天神となったという。』

日本四社は、西：筑前国飛梅社、南：讃岐国四季梅社、北：出雲国花久里梅社、東：当青梅社

青梅神社から路地を進み、小さな社「出世稲荷神社」を拝み、傍の大道寺に寄る。(13:31)
当山は小田原北条氏の家臣大道寺氏を中興とし、その名から寺名にしたという。田山花袋ゆかりの人、幕末の国学者等の墓がある。

大道寺を出て右折。館林駅へ向かう途中の広場に「善導寺跡 竜の井」があった。(13:40)
善導寺は代々の領主(由良、長尾、赤井、北条)の庇護を受け、榊原康政が館林城主10万石に報ぜられると本堂はじめ七堂伽藍を整備した。昭和60年に館林市都市計画により城沼東端に移転した。

「竜の井」は善導寺境内にあったが、善導寺が移転したため竜の井だけが残った。この井戸は城沼と青龍の井戸と繋がっているとの伝説がある。

竜の井から先に進むとすぐに館林駅前のロータリーに出る。(13:43) 館林駅は明治40年8月27日に開業。現在の駅舎は昭和12年(1937)に改築。平成10年に「しゃれた模様の窓がある洋館風の駅舎で小規模ながら歴史を感じさせる駅」として「関東駅百選」に選定された。

13時45分、館林駅に到着。13時57分発久喜行きに乗る。

今日は館林城をめぐるウォークであった。



宵(初引)稲荷神社



館林城土橋門



旧秋元家別邸



尾曳稲荷神社



夜明稲荷神社



大手門（追手門）跡



日本四社青梅神社